



ルーテル学院だより

NO.143
2020.6.15

<http://www.luther.ac.jp/>

発行 ルーテル学院大学・
日本ルーテル神学校
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

発行人 石居 基夫

授業探訪 「青年心理学」



石川与志也 准教授

〈専門分野〉
臨床心理学 精神分析的心理学療法
思春期青年期の人格発達
〈主要担当科目〉
青年心理学 精神分析学
公認心理師の職責 心理療法演習
心理実習

今回は、「青年心理学」についてご紹介します。

Q 授業では何を学ぶことができますか？

A 「青年心理学」では、青年期の心の揺らぎと危機、アイデンティティ獲得のプロセスをどのように理解できるのかを探求します。特に、精神的な発達理論を基盤として、現代社会において青年の心がどのように発達するか、どのような難しさに直面するかの理解を深めます。

Q 青年期というのは具体的にどのような時期を指しますか？

A 青年期は、子どもから大人になる移行の時期です。思春期の身体の変化に始まり、自分とは何者かというアイデンティティの模索しながら、社会の中で一人の大人として生きていくようになるまでの時期です。かつては10代後半もしくは20代前半ぐらいまでを青年期と呼んでいましたが、最近では30歳ぐらいまで、さらにはもう少し後まで続くとも言われています。

Q なぜ青年期が長期化していると言われるのでしょうか？

A この点については、多くの要因が複合的に関連しており、様々な観点から検討する必要があります。ここでは社会環境の変化という観点に絞って考えてみたいと思います。

現代社会は、社会のグローバル化とIT機器の発達によるコミュニケーション形態の変化が急速に進み、経済性と効率性が重視される社会になっていきます。インターネットでクリックすれば欲しいものが買え、LINEを送ればすぐに誰かに繋がれる（という錯覚を持つ）便利な社会になってきている一方で、欲求不満に耐えられず、自分の欲求がすぐに満たされることを求める社会になってきています。

しかし、私たちの心が成長するためには、すなわち、私たちが大人になるためには、欲求不満に耐え、自分の心と頭を使って考え、自分から他者に働きかけていけるようになることが大事になります。それは、フロイトの言葉を借りるなら、「愛する能力と働く能力」を身につけることも言えます。先ほどお話しした社会環境の変化は、このような能力を身につけることを難しくしており、それが青年期の長期化の一つの要因と考えられます。

Q 授業は具体的にどのような形式で行いますか？

A 授業では、まず青年期の発達や青年期に起きる危機に関してこれまでの研究によって得られた知見を学びます。それと同時に、私自身の臨床経験や研究を通して私が掴んでいることを

お話し、学生の皆さんが感じていることを発言してもらい、ディスカッションすることを通して、現代の青年の心について共に探求します。学生には、現代の青年に起きてい現象について自分の問いを立て、学期を通してその問いを深め、学期の終わりに自分の問いに対するその時点での答えを最終レポートとしてまとめてもらいます。

Q 自分の問いを立てるといのは難しいのですが、どうしたらいいですか？

A 自分の問いを立てるためには、まず自分が感じた違和感に留まってみることが大事です。皆さんも何か引かかる、何か気になると思うことは多々あるのではないのでしょうか。先生はこう言っているけれど本当にそうだろうか、授業で学んだ理論はどうもしっくりこない、いま若者の間で流行っているこの現象がなぜか気になるなどの引っかかりを感じることもあると思います。その引っかかりを大事にし、それをしばらく心の中に置きながら授業を受け、先生や仲間と対話をし、日々の学びを進める中で、1つか2つ、自分の問いが育ってくると思います。このように自分の問いを立て、それを探求するおもしろさを体験できるようにすることが、このクラスの一つの目標です。



2019年度 社会福祉士・精神保健福祉士 合格率

第32回（2019年度）社会福祉士国家試験の現役合格率は65・0%（全国平均合格率29・3%）、第22回（2019年度）精神保健福祉士の現役合格率は100%でした。

本学では、受験対策支援として模擬試験受験の機会を提供し、外部講師による特別受験対策講座も開講しています。これらの受験対策支援は、受験年次の4年生だけでなく、3年生も対象としています。また、各資格の受験対策講座は正規科目として開講しています。さらに受験日到目前に控えた年末年始には専任教員による自主勉強会をキャンパス内で行っています。

このような様々な受験対策支援の積み重ね、受験生という同じ立場にある学生同士の支え合い、そして何よりも受験生自身の努力と頑張りが高い合格率となって表れました。この結果が後に続く学生たちにとっても励みになることを願っています。

社会福祉士（国家資格）

高齢者、児童、知的障がい者、身体障がい者、医療、司法福祉、生活困窮者など、さまざまな領域で相談援助の専門職として働くソーシャルワーカーの国家資格です。福祉系4年制大学において指定科目を履修し卒業すると受験資格が得られます。

精神保健福祉士（国家資格）

心の病を患う人の病院から地域生活への移行、地域生活の維持、就学・就労支援など、精神保健福祉領域で相談援助の専門職として働くソーシャルワーカーの国家資格です。福祉系4年制大学において指定科目を履修し卒業すると受験資格が得られます。

第32回（2019年度）

社会福祉士 国家試験

現役合格率 **65%**

（全国平均 29.3%）

第22回（2019年度）

精神保健福祉士 国家試験

現役合格率 **100%**

（全国平均 62.1%）

フィリピンインターンシップ報告

海外インターンシップ 教授 原島 博

海外インターンシップ（A）はアジアを対象としてフィリピンで毎年実施しています。

去る3月からコロナウイルス感染拡大が心配されるようになり、1カ月間のインターンシップを3週間に短縮せざるを得ませんでした。このような動きの中でも、参加した3年生2名はマニラ首都圏のストリートチルドレンと家族を支援するNGO（非営利団体）の実践から多くを学ぶことができました。インターンシップのなかに英語プログラムを組み込んで、現地での経験を充実したものにしています。

学生にとって、異文化社会のなかで自己や日本社会の在り方を振り返る機会となります。この経験は、厳しい状況を生きた子どもたち、また、彼らを支えるソーシャルワーカーや多様な支援者との関係をとらえて自己成長を促進する場となっています。

フィリピン 海外インターンシップに参加して

地域福祉開発コース4年 高橋 真穂
（県立二俣川看護福祉高等学校出身）
春休みを使って、フィリピンでストリートチルドレン支援を軸に活動して



個別のご相談 資料請求（大学 大学院）等について

個別相談や資料請求をご希望の方は本学ホームページ、及びメールからお問合せいただけます。

【ホームページ】
<https://www.luther.ac.jp>

【メールでのお問合せ】
入学に関すること 資料請求 個別相談
koho@luther.ac.jp
入学試験に関すること
admission@luther.ac.jp

いるNGOでインターンをさせていたいただきました。週4日ほどNGOで活動をし、週2日現地の姉妹校でスーパービジョンや英語のレッスンを受けました。活動内容としては、NGOの建物内にある子ども達が生活をしている場所でも達と関わったり、マニラ市内の別の地域でのストリートチルドレンへの炊き出しとそのことも達へのレッスンへの参加などです。そして、活動を通して感じたことや考えたことなどを、現地の姉妹校でのレッスンでまとめたりしました。

NGOでの活動や生活を通して驚いたことはたくさんありました。それはもちろん日本と文化・慣習、社会的な違いもあります。それに加えて現地の抱えている問題の複雑さ、豊かさとは何なのか、この団体がどれだけ子ども達にとって必要な存在なのかなど、日本とは違う文化の中で、社会福祉や生活している環境について子ども達の目線に立って考えたり、生活するのはとても意味深いものでした。



タガログ語をもっと勉強しておけばより多くのことを学べたであろうという悔しさはありますが、フィリピンで得られた学びは私自身や考えに良い影響を与えてくれました。